

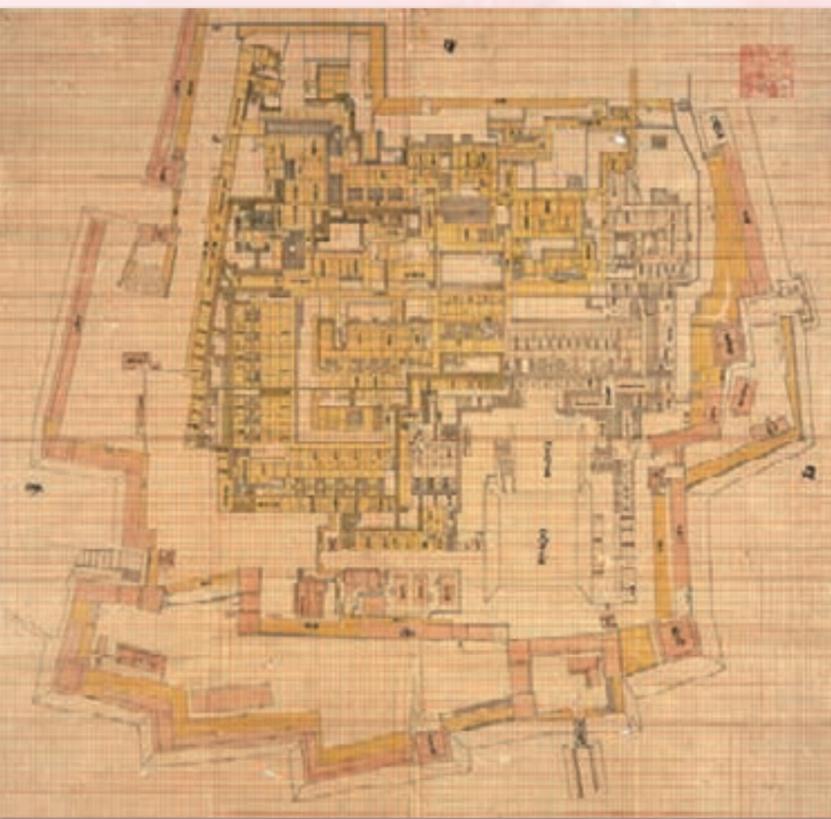
第一会場 (企画展示室)

第1章 江戸と江戸城

江戸時代初期の江戸図から、江戸城を中心とした城下町の形成過程を紹介し
ます。
明暦の大火(明暦3年(1657))により、江戸城は天守を失います。それまでの
天守に代わって江戸城の新たなシンボルとなった御殿について、江戸城の図面
や工事記録類を中心に展示します。

第2章 和宮とその時代

文久2年(1862)、皇女和宮は、14代将軍徳川家茂に嫁ぎます。和宮を取り
まく時代の情勢を各種の記録類から追います。また、初公開となる都立中央
図書館蔵の「豊田家文書」等を用いて、和宮の住まいとなった大奥という空間
や、幕末期の大奥の意匠をひも解きます。



重要文化財 寛永度御本丸大奥惣絵図 (東京都立中央図書館蔵)



初公開 御対面所御下段御二之間境御欄間鶴巢籠御彫物繪圖 (東京都立中央図書館蔵)



慶長江戸絵図(部分) (東京都公文書館蔵)



撰要永久録御触事巻之七拾九 (東京都公文書館蔵)

初公開 御対面所御下段御二之間境御欄間鶴巢籠御彫物繪圖 (東京都立中央図書館蔵)

第3章 昭憲皇太后とその時代

明治元年(1868)、江戸城は明治天皇の入城をもって東京城となり、翌年には皇城と改称されました。皇城内には太政官などの政庁や、天皇・皇后の住まいが置かれます。明治維新を経て江戸城が皇城へと変化する姿や、昭憲皇太后について、記録類や写真類を中心に追いかけてます。



昭憲皇太后御真影 (宮内庁宮内公文書館蔵)



皇后方服制圖明治四年調制 (宮内庁宮内公文書館蔵)



皇后方服制圖明治四年調制 (宮内庁宮内公文書館蔵)

エピソード 和宮・昭憲皇太后と東京

明治2年(1869)以降、京都へ戻っていた和宮は、明治7年(1874)に再び住まいを東京へ移し、明治天皇と昭憲皇太后の行幸啓を受けたほか、宮中行事にも参加します。エピソードでは、和宮と昭憲皇太后の交流や、皇太后が古典文学に造詣が深かった一方、新しい時代にふさわしく養蚕の振興、女子教育の発展に寄与したエピソードなどを紹介します。



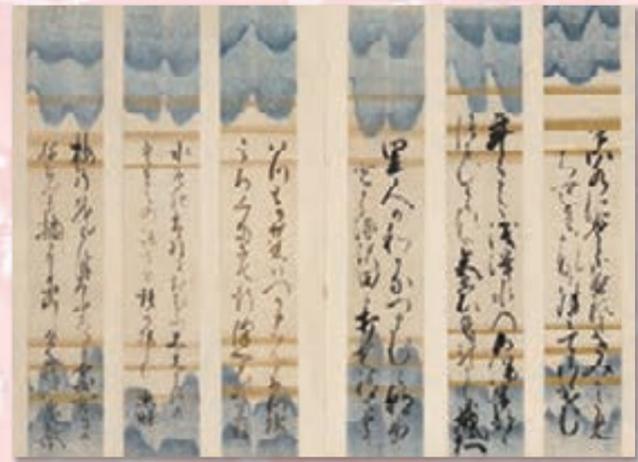
皇后宮様蚕製絲場御遊覧之図 (東京都立中央図書館蔵)



重要文化財 太政官御用留 (東京都公文書館蔵)

第二会場 (多目的ホール)

明治初期から大正・昭和期にかけての皇居内外の変遷を、古写真や地図の複製パネルなどで紹介します。



宮中月次京都華族等詠進 (宮内庁宮内公文書館蔵)



昭憲皇太后御集 (宮内庁宮内公文書館蔵)